

Young Officials' Camp 2013

参加報告書

函館地区バスケットボール協会

須藤 健吾

8月11日(日)

6:30 起床・洗面・部屋掃除等

7:00 朝食

9:00 実技Ⅲ「高校生男女モデルゲーム」

(各自帰りの交通機関にあわせて随時解散)

1 期日

平成25年8月9日(金)～11日(日)

2 会場

埼玉県立スポーツ研修センター

埼玉県上尾運動公園体育館

3 参加者

25歳以下の日本公認審判員

男性23名 女性17名 計40名

4 日程

8月9日(金)

13:00 開講式

13:30 実技Ⅰ「ランニングフォーム等」

17:30 夕食

18:50 講義Ⅰ「海外に目を向けたときにわかること」

19:50 講義Ⅱ「ルールについて」

21:00 班別ミーティング

21:30 入浴・就寝準備

23:00 消灯

8月10日(土)

6:30 起床・洗面・部屋掃除等

7:00 朝食

9:00 実技Ⅱ「高校生男女モデルゲーム」

17:30 夕食

18:50 講義Ⅱ「審判とは？(自分を変えるために)」

20:30 閉講式

21:30 入浴・就寝準備

23:00 消灯

5 講義参加報告

◇講義Ⅰ「海外に目を向けたときにわかること」

講師：橋本 信雄 氏、須黒 祥子 氏

- ・審判にとって、その場所(各国や各都道府県)で、最高のパフォーマンスをすることが何よりも求められていることである。そのためには、食事、睡眠、体づくりなど、日頃の積み重ねが重要となる。加えて、審判活動のみならず、仕事やプライベートのスケジュール管理能力も大切となる。
- ・会場全体が納得する笛を吹かなくてはいけない。トラヴェリング、不当な手の使い方などは、1Pから判定していく必要がある。トラヴェリングであればミートの際の足のゆるさ、ファウルであれば大きな要因のひとつである手の使い方に細心の注意を払わなくてはならない。
- ・試合中は、「自分(審判)の力を出そう」ではなく、「Playerによりパフォーマンスをさせよう」という、「Player is first」の考え方が大切であり、試合運営に大きく影響していく。
- ・今後、審判としてより高いレベルを目指すにあたり、特別な何かをするのではなく、体力、気力を維持していくことが大切である。自分のもとへチャンスがきたときに、それを生かせるかどうかは、そのとき自身に備わっている体力、気力、メンタル、フィットネス、人間性などによる。
- ・英語力向上のためには、多様な手段を用い、継続することで成果が現れる。聞いて理解よりも、自分の思いを相手に伝えられるか(話せるか)の方が、重要であることを忘れてはいけない。
- ・プレゲームカンファレンスは、主審、副審によらず、対等な立場で行うことが望ましい。その際の関係が試合に表れるからである。

◇講義Ⅱ「ルールについて」

講師：平野 彰夫 氏

- ・審判としてコートに立った以上は、ファウルとヴァイオレーションの種類が正確であることを意識し続けなくてはならない。
- ・試合中に判定をするにあたり、ストレートラインを作っただけではいけない。ストレートラインであるにも関わらず、判定を下すことは最もしてはいけないことのひとつである。（例：トラヴェリングは、ボールの保持と足下の関係を見ることのできる位置から判定しないとダメ。）そのため、スペースウォッチングを欠かすことはできず、自ずとオールウェイズムーヴィングの必要性に気付くことができる。
- ・シリンダーの考え方にもっとこだわらなくてはならない。まずは、シリンダーの定義を今一度明確にする必要がある。シリンダーから外れた手や足は、ファウルになりかねない。また、横もしくは後ろへの移動、真上へのジャンプは、シリンダーが維持されていればファウルとはならない。カットインに対する守り方、インサイドでのショットブロックなど、互いのプレイヤーのシリンダーを的確に抑えることが、今後より一層求められる。

◇講義Ⅲ「審判とは？（自分を変えるために）」

講師：宇田川 貴生 氏

- ・『審判としてのレベルアップ＝よい人間性』というわけではない。人間性を高めようという意識が、自然と審判力の向上にも繋がっていく。大切なことは、結果よりもプロセスである。
- ・審判力を高めるためには、何気ない日常における意思決定、行動を常に自分自身で見つめ、そして考える習慣を身につけることが大切である。
- ・「審判がよかった」という褒めを期待して審判をするべきではない。むしろ、ミスをしたときに大きな批判を受けるのが審判の宿命である。従って、当たり前前のことを当たり前に行い、トラブルなく試合を運営し、それを繰り返し繰り返し行うことが、ベンチ・選手・観衆から信頼を得る一番の方法である。

- ・ミスは客観的に受け入れ、次にどう修正するか、謙虚に考えなければ成長はない。ただし、審判がいなければ試合はできない。それだけ重要な立場であるからこそ、毅然とした態度でいるべきである。
- ・約束と習慣にあるように、思考、動きともに、意識し続けることで習慣化され、無意識にできるようになるのである。
- ・審判に必要な人間性
 - ①コミュニケーション能力
自分の見方、考え方を論理的かつ具体的に伝えることを習慣化すべきである。審判は、自分の意思（判断・判定・決断）を、笛・ジェスチャー・言葉によって、プレイヤー・ベンチ・観衆に伝えるのが役割である。従って、明確な自己表現（意思表示）が、審判としての絶対必要条件である。
 - ②決断力
優先順位を見極め、物事を客観的に見ることを習慣化すべきである。審判は、常に決断を求められている。その決断により、試合を運営していくのである。従って、毅然とした態度で試合に臨むためには、常に自分の決断に対して責任をもつ必要がある。
 - ③オープンマインド
失敗を恐れない勇気を持ち、ミスは謙虚に受け入れることを習慣化すべきである。失敗も含め、日常で自分自身をオープンにできない人は、オープンにさせられるオンザコートでのギャップがメンタル面でのセルフコントロールにマイナスとなる。
 - ④客観性
自分目線ではなく、物事や現象を客観的に見ることを習慣化すべきである。自分の考えにこだわりをもつことは大切であるが、自分の見方・考え方、そして決断に関し、他者の見方・考え方を受け入れることは、それ以上に大切なことである。
- ・原則として、審判の仕事は、『ルールブックに基づいて、二者択一の決断を笛によって示す』ことである。審判は、ファウルやヴァイオレーションなどに関して、1試合の中で500～800もの決断をしていると言われている。

・ファウルにおける二者択一の決断

- ①触れ合いの事実…白黒の二者択一である。
- ②責任…白黒の二者択一である。
- ③影響…白黒及びグレーがある。

影響に関しては、“プレイにおける影響”
と“試合における影響”を決断すべき。

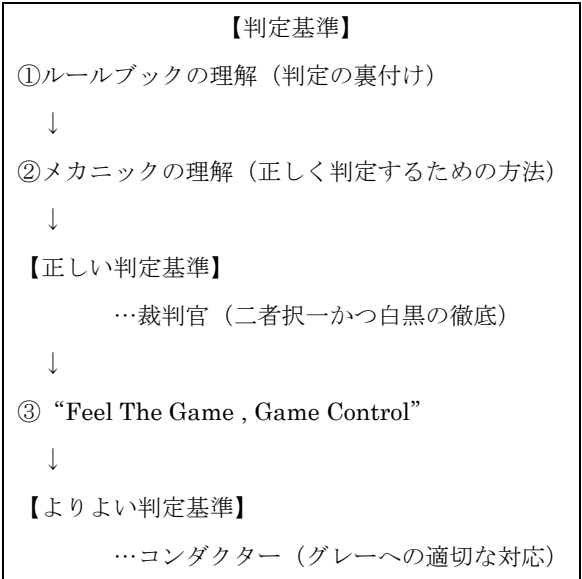
・審判員にとって大切なことは、二者択一の決断をするにあたり、判定基準を構築することである。その判定基準を、正しい判定基準とよりよい判定基準に分けて考えられたのが以下のチャートである。

【正しい判定基準】

- ①判定の裏付けとなるルールブックの理解
- ②動き、位置取り、協力といった正しい判定を行うために必要な方法としてのメカニクスの理解
この2点を基盤とし、特に若いうちは、裁判官になりきれることが審判成長の第一歩である。「ゲームの流れに合っていない笛」「選手の心理を理解していない笛」などが試合後の反省で挙げられるが、そのような抽象的な言葉を用いた反省の中では、次に進むことはできない。

【よりよい判定基準】

- ③ゲームの流れ・選手の状況・得点差・残り時間等を踏まえ、ゲームに合った判定を行う“Feel The Game , Game Control”の考え方
これはつまり、グレーゾーンへの適切な対応を意味している。



6 実技参加報告

◇実技 I 「ランニングフォーム等」

講師：齊藤 太郎 氏、田中 悠里 氏
(NPO ニッポンランナーズ)

- ・ランニングとは
ランニングにおけるキーポイントの間違いがよく見られる。誤った解釈では、効率的なランニングをすることはできない。
×ジャンプ力⇒○体重をのせる（体の真下）
×キック力⇒○班力を利用（地面から受ける力）
×脚を上げる⇒○地面をとらえる
×脚筋力⇒○体幹を使う
- ・体幹（BODY TRUNK）とは
体幹で生み出した力を末端（腕や脚）へと伝達することが、基本的な運動の原則である。
- ・こけし走りとは
こ：骨盤（脚の付け根）
け：肩甲骨（腕の付け根）
し：姿勢
- ・まとめ
実技 I では、理論説明を受けた後、ストレッチやラダーを使用したトレーニングを行った。その中で、日常生活においても常により姿勢を心掛けること、どんな運動局面においても軸足がぶれてはいけないことが大切であると話されていた。特に、ランニングにおける大事なポイントとして、以下の5点を挙げられた。
 - ①骨盤前傾・姿勢S字ライン
この姿勢を維持することで、他に無駄な力がかからず、安定した走り続けることができる。
 - ②体を前に崩し続ける・体重をのせる
走り始めは、自然と生まれる力を最大限利用する。
 - ③体の真下で接地する。
軸足の考え方を大切にする。
 - ④肩甲骨を利用して腕をひく
肩より先だけを何回も何回もふるのではなく、肩甲骨から大きく腕を引きまわしていく。
 - ⑤こけしを意識して走る

◇実技Ⅱ「高校生男女モデルゲーム」

(10分-2分-10分, 延長戦なし)

①鷹の台-甲府昭和 (女子)

主任: 東 祐二 氏

主審: 須藤 健吾 (北海道)

副審: 三角 隆至 氏 (東京)

<主任より>

- スペースを捉えようとする意識が強くてよい。
- TO管理がなされている。(特にショットクロック)
- カットインの際の手のファウルを吹けている。
- ベンチにもっと気を配る必要あり。(コーチの立ち位置, 選手の様子, ベンチエリアなど)
- 場合によっては, TO やコーチへ一声かけることも大切。それにより, 観衆からの信頼感も出てくる。
- アウトオブバウンズの際のリスタートの位置にもっとこだわるべき。細かいところも確実に。
- プレイを最初から捉えられていないのに, 現象だけを見て吹いていることがある。(イリーガルスクリーン, ランニングリバウンドなど)
- ショット後, ボールが空中にある間にリングをまたいで動いてはいけない。
- リード先行時は, 最前線にいるプレイヤーに目を当てなくてはいけない。(ボールマンでなくても)

<自己反省>

- ・初めて顔を合わせる相手審判とのコミュニケーションがいかに大切であるか身をもって実感した。この試合では, プレイゲームカンファレンスにおいて, 各々が当たり前にやるべきことと互いが協力すべきところを確認し, 試合に入ることができた。
- ・手のファウルやトラヴェリングに関して, 開始数分で吹きこぼしてしまうことが, 後々自分自身を苦しめることになるかと改めて感じた。
- ・カットインやインサイドプレイに対する手の使い方に関して, 影響を考えすぎることが多かった。だが, 「まずは影響に関係なく吹く」という考え方をもつことが大切, そして, その後は, 1 試合吹き続けることが絶対条件となってくることも忘れてはいけないと指導して頂いた。

②都立駒場-逗子 (男子)

主任: 宇田川 貴生 氏

主審: 須藤 健吾 (北海道)

副審: 小金沢 ななえ 氏 (長野)

<主任より>

- スペースを見に行こうとする姿勢が感じられる。
- 相手審判を視野に入れた動きにトライしようとしていてよい。上手くカバーして判定できたケースもあった。
- 試合開始のトスアップと同時にゲームの流れに乗れるかが肝心である。それができないと, 笛をのみこんでしまうケースが出てくる。
- 2 人の審判の間では, まずは, 分担ありきである。分担をきちんとし, 相手審判がどこを見ているかによって, 自分の見るべきところを変える必要がある。その上で, 互いをカバーし合うことが協力である。
- ビッグマンのインサイドプレイをリードで見るときには, 一歩下がって見るとよい。横に動くだけでなく, 縦に動くことでよりワイドにプレイを見ることが出来る。
- リードの際に, OF の進行方向に入り, ストレートラインを自ら作っていることがある。確かに, リードは必ずプレイを受けなくてはならない。しかし, 「プレイを受ける=進行方向に入る」わけではない。

<自己反省>

- ・審判にとって一番の仕事は, 判定することである。そのためには, スペースウォッチングを続けることが求められ, 必然的にオールウェイズムービングが必要となる。しかし, プレイの終わりを感じて足が止まっているというケースがある。
- ・シリンダーやリーガルガーディングポジションの確認が疎かになるケースがある。触れ合いが起きた時のそれらを見て瞬間で判定することが必要である。
- ・リードで自らストレートラインを生み出すケースがある。OF 中心にプレイを見ているからである。確かにリードはプレイを受けるが, 場合によっては, スペースをとらえるために横に動くことも必要となる。

◇実技Ⅲ「高校生男女モデルゲーム」

(10分-2分-10分, 延長戦なし)

③入間向陽一越谷北 (男子)

主任：宇田川 貴生 氏

主審：須藤 健吾 (北海道)

副審：千原 翔太 氏 (大分)

<主任より>

○相手審判が視野に入っていて、お互いの協力がなされていた。

○TO 管理と TO への適切な声かけがなされている。

○カットインの際の手のファウルを吹けている。

○攻守の切り替えに素早く反応し、走れる足がとってもよい。さらに予測する力をつけることで、余裕をもってプレイを見ることができる。

●若いうちは、ルールブック通りに全て吹き、裁判官になるべき。意地をもって全て吹くこと。

●1P で吹き、よくないプレイを止めさせることが後々よく働く。その 1 プレイの影響ではなく、試合全体を通しての影響を考えるべきである。

●OF は DF の動きを見てプレイしている。従って、審判は DF を見ることでプレイを予測することができる。(DF 中心とは、そういうことである。)

●試合後のミーティングでは、次に同じ現象が起こった時にどのように対処するか、何となくではなく、より具体的に話す必要がある。

<自己反省>

・相手審判を確実に視野に入れることで、自分の見べきところが明らかになり、余裕をもって判定することができたように思える。

・判定をしても、それがプレイヤー、ベンチ、観衆に対してわかりやすく伝わらないといけない。そのために、プレイゼンが重要であることを再認識した。身振りや必要に応じて言葉も大切である。

・トラヴェリングやパーミングを吹きこぼした後に、DF ファウルを吹いてしまうケースがあった。審判の判定により OF 有利 DF 不利が生じ、その上で DF ファウルを取り上げてしまうことは最もよくないことである。

7 総括

この3日間、日本の審判トップレベルの講師の方々、全国各地から集まった同世代の審判仲間と共にバスケットボールに深くかかわることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。この研修を通じて、同世代の仲間のバスケットボールや審判に対する熱意が非常に感じられました。また各々が自分のバスケットボール感をきちんともっており、そのような仲間から大きな刺激を受け、私自身のモチベーションがより一層高まりました。

私は、今回の研修に参加するにあたり、自身の課題を明確にし、それらを意識して取り組もうと臨みました。実技では、講師の方々から、たくさんの貴重なアドバイス、さらなる課題を多々ご指導頂きました。講師の方々には、疑問に感じたことに対し、丁寧かつ大変わかりやすく教えてくださりました。そこで私が強く感じたことは、ルールのさらなる理解の必要性です。曖昧な解釈ではなく、行間を含めての理解が、今後の審判力向上には欠かせないと痛感しました。加えて、バスケットボールの技術理解についてもまだまだ未熟であると感じました。研修を終えた今、失敗を恐れず実践すること、また、常に謙虚で直向きな姿勢でいることが、課題克服の根底にあるものだと考えています。

多くの課題がある一方で、講師の方々の言葉から、自身のよさを見つめ直すこともできました。ラン-レポート-ランやショットクロックへの意識など、それらは全て、日頃の積み重ねが肝心になる内容であり、常に意識し続けることの重要性を改めて感じることができました。

最後になりますが、3日間このような貴重な機会を与えて頂きました道協会、地区協会の皆様にも深く感謝申し上げますとともに、今後の私の成長が恩返しになることを心にとめ、これまで以上の努力をしていきます。また、素晴らしい環境の中で受講できるようご配慮頂いた講師の皆様、日本協会の皆様に深く感謝申し上げます。また、このような機会を与えて頂いたことを決して当たり前と思わず、感謝の気持ちをコート内外で表現していきます。ありがとうございました。